

第6回猪苗代町議会定例会 町長説明要旨

開会：令和6年12月3日(火)

令和6年第6回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、何かとご多用の中ご出席いただき、ご審議をお願いできますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

提出議案等の説明に先立ち、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

(令和7年度予算編成方針について)

はじめに、令和7年度予算編成方針について申し上げます。

内閣府発表による10月の経済報告では、「景気は、一部に足踏み状況にあるものの、緩やかに回復している。」とし、先行きについては、「雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇や中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」としております。

また、6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024」に基づき、総務省は8月に「令和7年度の地方財政の課題」を公表しました。それによると、「DX・GXの推進、人への投資、地方への人の流れの強化をはじめ、能登半島地震の教訓を踏まえた防災・減災の取り組み強化、こども・子育て支援や地域医療の確保など、地域経済の好循環や持続可能な地域社会の実現等に取り組むことを打ち出し、「経済・財政新生計画」を踏まえ、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額について、令和6年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保する。」としております。

一方、福島県が発表した「最近の県経済動向」による県内10月期の経済情勢は、「景気は足踏み状態となっている。」と報告され、前月の総合判断が据置きとなっております。

また、福島県が10月に発表した令和7年度当初予算編成方針の基本的な考え方では、「総合計画に基づく力強い復興と福島ならではの地方創生の加速化、急激に進む人口減少への対応、物価高騰や労務単価の上昇への対応、自然災害からの復旧・復興や防災力の強化など、国の動きを踏まえた対策が引き続き必要である。」としております。

こうした中で、本町の主要産業である観光業については、新型コロナウイルス感染症対策の規制緩和によ

り入込客数の伸びが期待されたところですが、冬期間における町内スキー場の入込客数が雪不足の影響により減少したことなどから、本年1月から9月までの本町の主な観光施設の延べ入込客数は、約194万人となり、前年同期の約192万人と比較し、約1%、約2万人の増加となっております。

一方、農業については、昨夏の記録的な猛暑による高温障害の影響やインバウンドの増加による米の消費需要の伸びなどから、令和6年産米は米価の上昇につながりましたが、物価高騰による生産資材価格の高止まりは続いており、農業を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあります。農業経営の安定確保に加えて、未だ根強く残る風評の払拭と本町農畜産物のブランド化の一層の推進や競争力強化に取り組んでまいります。

さて、本町の財政状況は、歳入の根幹である町税収入は令和7年度以降も増収を見込むことは厳しいと思われまます。また、国の令和7年度概算要求時の地方交付税総額は約19兆円であり、対前年度比1.7%の増額となっているものの、臨時財政対策債の計画額は、対前年度比70.4%の大幅な増額となっているため、本来普通交付税で交付されるべき財源であるにもかかわらず、地方自治体が臨時財政対策債を増額発行することにより財源を確保する必要があることから、今後も国の動向を注視してまいります。

一方、歳出については、限られた財源を有効に活用するため、経費の削減と見直しを行い、行政のスリム化に努めておりますが、扶助費等の義務的経費は増加傾向にあり、また、都市計画及び生活関連道路などの社会資本整備、人口減少・少子高齢化対策など多額の財政需要が見込まれております。

このような中、令和7年度は公共施設や道路などのインフラ施設の長寿命化事業、さらには、物価高騰の影響からあらゆる面での経費の高止まりが見込まれることなどから、これまでに増して事務事業の選択は、振興計画に位置付けた事業であっても、慎重かつ厳正な重点選別を行ってまいります。

これらを踏まえ、令和7年度当初予算編成においても引き続き厳しい財政状況下にありますが、第七次猪苗代町振興計画の実現に向け、事業の重点化を図ることとしておりますので、町民各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(新型コロナウイルスワクチンの定期接種について)

次に、「65歳以上の高齢者」や「60歳から64歳までの基礎疾患を有する方」を対象として、令和6年10月から始まった、新型コロナウイルスワクチンの定期接種については、インフルエンザワクチンの予防接種と同様に自己負担額の半額を町で助成しておりますが、10月末までの実績は、154件となっております。

おります。

なお、定期接種の実施期間は、会津若松医師会等との協議により令和7年1月31日までとなっております。

(水稲やそばの収穫状況について)

次に、水稲とそばの収穫状況について申し上げます。

はじめに、水稲の収穫状況ですが、農林水産省は10月25日現在で、福島県の作況指数を「102」の「やや良」とし、会津地方も「102」の「やや良」となっており、収量については平年並となりました。

なお、本年産米の品質であります。J Aの集荷・買入実績によりますと、J A会津よつば全体の一等米比率が90.3%であったのに対し、本町産の一等米比率は99.4%で、管内平均を9.1ポイント上回る結果となりました。

今後、生産者の方々と協力しながら、本町産米の高品質化・ブランド化を図り、消費者に選ばれる競争力のある産地づくりを進めてまいります。

続いて、そばの収穫状況であります。本年は、昨年並みの255ヘクタールの刈り取り申込み面積に対し、荷受重量は124トンで、昨年より42トン増加いたしました。

そば乾燥調製貯蔵施設に搬入された玄そばの品質につきましては、等級検査の結果、全て一等となっております。

おり、先月、5年ぶりにカメラーナで開催された「第28回猪苗代新そば祭り」におきましては、県内外の多くのお客様にご来場いただき、好評をいただいたところであります。

今後も、「蕎麦の里」宣言の町として良質のそばを生産し、「いなわしろ天の香」ブランドの確立を図りながら、農家の経営の安定と所得の向上に努めてまいります。

（雇用情勢について）

次に、雇用情勢について申し上げます。

厚生労働省福島労働局の情報では、県内の来年3月卒業予定の高校生の求職者数は9月末現在で3,343人、求人数は9,060人、求人倍率は2.71倍となっております。会津地域に限ってみますと、求職者数は444人、求人数は1,151人で求人倍率は2.59倍となっております。

町としましても、町内企業に若者の雇用拡大を図るため、「新規学卒者等就職支援奨励金」等の周知に努めると共に、町無料職業紹介所で求職者への相談窓口の充実と最新の求人情報を提供してまいります。

（経済対策及び観光振興について）

次に、経済対策及び観光振興について申し上げます。

本町の商工観光事業を取り巻く経済状況はまだまだ厳しい状況にあります。

昨年度に引き続き、町内での消費購買の活性化を図るため、1セット2千円で購入できる「50%プレミアム付き電子クーポン」1万5千セットを11月15日から販売しております。また、原材料や原油価格高騰による物価上昇対策として、生活者応援による消費拡大と事業者支援を目的として、町民向け1セット5千円で購入できる「20%プレミアム付き野口英世ふるさと商品券」を、10月27日より9千セット販売し完売となっております。

これから、冬期間最大の観光誘客の目玉であるスキーシーズンを迎えますので、引き続き、町内経済の活性化と観光の振興を図ってまいります。

(本町の学校教育について)

次に学校教育について申し上げます。

猪苗代中学校においては運動部の活躍が目覚ましく、この度、猪苗代中学校駅伝部男子は9月の会津大会を制し、10月の県大会で念願の初優勝を飾り、中学駅伝男子として初の全国大会出場を決めました。引き続き県代表として臨んだ東北大会においては、2位に1分以上の大差をつけ優勝するなどその活躍は町民の熱い注目を集めているところであります。

また、駅伝部女子も、会津大会2位、県大会3位、そして東北大会では福島県勢トップの4位入賞とこちらもその実力を遺憾なく発揮しました。

12月15日に滋賀県で開催の第32回全国中学校駅伝大会へ出場します駅伝部男子については、選手1人ひとりが持てる実力を余すところなく発揮し、悔い無く大会に臨んでいただき、是非とも町民へ良い報告をしていただければと思っております。

町としましても選手派遣経費の補助や応援バスの運行など支援に努めてまいりたいと考えております。

(文化・スポーツの推進について)

次に、本年10月以降の文化・スポーツの振興について申し上げます。

はじめに、「母から子への手紙コンテスト」事業では、今年で23回目を迎え、全国から1,313作品の応募があり、今月1日に表彰式を開催しました。「野口英世の少年時代」の映画上映会を行い、県内外から来町された受賞者の方々を歓迎し、猪苗代町の魅力を広く発信したところであります。

また、図書歴史情報館「和みいな」においては、町民の読書活動を推進すると共に、季節のイベントとして「ハロウィン」や小学生・中学生・高校生が様々な分野の本に触れ本の魅力を発表する「ビブリオバトル」を開催いたしました。

続きまして、スポーツ振興について申し上げます。

10月14日に、新たなスポーツイベントとして「猪苗代町スポーツフェスティバル」を開催しました。

本町ゆかりの選手として、フリースタイルスキーモーグルの上村愛子さんと本町出身でチェアスキーの鈴木猛史さんを招いた「トークショー」や「スポーツアトラクション」「ニュースポーツ」「体力測定」などを体験しスポーツに触れることで、健康増進を図りました。

10月24日に、開催されました「福島県高等学校駅伝競走大会」は、本町での開催が11年連続で通算14回目となり、男子24チーム、女子16チームの参加によって熱戦が繰り広げられました。

また、11月17日に、開催されました「第36回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」では、総合12位、町の部4位と昨年を上回る成績を上げることができ、今後につながるものと大いに期待しております。

関係者各位のご協力とご尽力に厚くお礼申し上げます。

次に、第103回全日本スキー選手権大会（アルペン競技スピード系）、第40回全日本学生スキーチャンピオン大会、第98回全日本学生スキー選手権（インカレ）が猪苗代スキー場で来年1月末に開催されます。3年目の本町開催となりますが、3大会を3日間に分けて、全国からそれぞれ約200人の学生選手や一般選手が来町し競い合う、他では見られない大会となります。

開催地である本町としても全面的に支援・協力して

まいります。

(提出案件について)

最後になりますが、本定例会に提出いたします案件は、

- ・ 令和6年度の一般会計補正予算に係る専決処分の報告が1件
- ・ 令和6年度の一般会計、特別会計及び事業会計に係る補正予算案件が5件、
- ・ 条例の一部改正案件が3件、
- ・ 損害賠償の和解案件が1件の計10案件であります。

各議案の細部につきましては、それぞれ所管する担当課長に説明いたさせますので、慎重にご審議の上速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。